

令和2年8月28日

第10回

会 議 録

桑折町教育委員会

## 桑折町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和2年8月28日(金)
- 2 招集場所 桑折町役場第1会議室
- 3 出席委員 1番委員 柴田宣広 2番委員 鈴木キヨ子  
3番委員 小野紀章 4番委員 長谷富子
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席者 教育長 会田智康  
こども教育課長 長谷部清治  
生涯学習課長 大内健矢
- 6 書記 総務係長 服部亜由美
- 7 開 会 午後1時32分
- 8 教育長挨拶  
暑い中、また多忙の中、お集まりいただき感謝申し上げます。  
夏休みが終わり、2学期の教育活動が開始した。小中学校については大変短い夏休みだったが、子どもたちは落ち着いているという報告を受けている。短かったためリズムを崩すことなく、緊張感を持った生活をしている様子。  
ご承知のとおり、全国そして県内でも連日感染が拡大している。桑折町においては今後とも、それぞれの活動の中で感染症対策を十分に講じながら進めていく。  
本日は協議事項がないことから、教育振興基本計画について意見交換とさせていただきますたく、よろしくお願ひしたい。
- 9 報 告  
(1) 教育行政報告について  
(2) 令和2年度第6回補正予算について  
(3) 2学期の学校(幼稚園)行事について  
(1)及び(2)をこども教育課長・生涯学習課長、(3)をこども教育課より説明
- 10 意見交換

「教育振興基本計画について」

教育長を座長とし進行

教育長

総合計画が延期になり本計画も仕切り直しになった。策定まで少し余裕が出来たことを好機と捉え、本日は、町民の代表である皆さんと、計画の「そもそもの部分」について話し合う機会とさせていただいた。事務的作業に偏りがちな計画の策定作業には、町民の意見を取り入れる機会を設ける必要がある。計画の骨格となる部分についてポイントを3つ掲げた。これに沿って今日はぜひ忌憚のないご意見をお願いしたい。

- (1) ポイント1：これからの桑折町の教育（主に学校教育）で、どのような人づくりをめざすのか？

設定趣旨について教育長より説明

柴田委員

「15歳のめざす姿」を達成するのは学校教育が基本。教育とは、人間として幸せに生きるための力を身につけさせるためのものであり、集団の中でその力を育てるのが学校教育。今後ICTを活用した個別授業になると、これと相容れない部分が生じる。公教育だけの目標達成が難しくなったとき、民間活動とのタイアップ、例えばコミュニティスクールを活用するなどの視点を加えたい。

鈴木委員

そもそも学校教育は「親の期待通りの子どもを育てるための教育ではない」ことに言及したい。親の期待通りの子どもを育てるための手段として、学校・教育・町に期待する保護者の意識を変えていく必要がある。原点は子育て。子どもに対し、いかに親中心でなく愛情を持って育てられたかどうかで、学校教育に移行する時点ですでに子どもに格差とレベルの違いが生じている。不登校、いじめに発展する素地ができあがるのもそこにあると考える。子育ての在り方について保護者に投げかける取組みを望む。

小野委員

3つの理念の中でも特に「たくましい未来を切り拓いていく子ども」を重視したい。コロナ禍で先の不透明な現在。加えてAI等の普及で将来的には職業が半分になるとも言われている。そのような社会を生き抜くため、子どもたちには自分で考えて行動し、意見を述べる力を持たせたい。これに当たっては、桑折ならではの教育でオリジナルの力を備えさせ「桑折っ子の育成」にもつなげたい。

長谷委員

親として最も望むことは、元気な体、また元気な体に備わる元気な心、そして命を大切に生きること。このことから「体力向上と心の教育」を重視したい。

柴田委員 近年、個性を伸ばす教育が重要視される一方で、学校教育は統一された規律遵守が基本であり、このバランスを取ることは教育の根本に言及することになる。桑折町の教育は「英才教育」のイメージが強いが、未来に向かってたくましく生き抜く子どもを育てるためにはそこからの脱却が必要。

教育長 「教育のめざす根本は何なのかを明確にする必要がある」ということが教育委員としての総意であると受け取った。「一人一人を育てるための計画である」ということをあらためて認識した。

(2) ポイント2：めざす人づくりのために、なにを行うか？

①教育活動の基本事項として行うこと

設定趣旨について教育長より説明

鈴木委員 これからの社会で生きていくためには、コミュニケーション能力・言語能力が非常に重要であるにもかかわらず、今は、学校と家との往復の中で様々な人とコミュニケーションを取る機会が少ない。一方的でなく、意見交換主体の対話的な授業によりそれらの能力を伸ばす教育が必要。

長谷委員 小学校でそれぞれの地域特有の活動を行っている。活動の継承により、桑折町への思いが強い人間が育つと考える。将来的に統合しても、それらを受け継いでいけるようなカリキュラムを望む。

柴田委員 ICT教育も英語教育も、理解するための基本は国語の能力であることから、国語教育は重要。「桑折町」として一体感を作るためには「旧町村の連合体という感覚」を払拭する必要がある、そのために4地区で分けることなく合同学習などによる地域教育を望む。

小野委員 現在はコロナ禍により、新学習指導要領に基づく各種の取組みがストップしている。来年度以降、コロナ対策が続くことを前提に、それを平常として新学習指導要領に基づくカリキュラムをこなしていける体制を、教員の働き方改革と両立させつつ構築していく必要がある。

②教育活動の関連事項として行うこと

設定趣旨について教育長より説明

鈴木委員 現時点でも手厚いと評価される子育て支援に、手厚さにより一貫性を持たせるために、まだ実施できていない部分、例えば病児保育などに取組むことで、さらに大きな強みになる。不登校問題は、親に対する子育てへの意識付けが重要。

小野委員 様々な取組みが一般町民だけでなく保護者にしっかり伝わっていないのではないか。伝われば、様々な知識や特技を持った地域の人が、学校に関心を寄せ、関係者となってくことで地域とのつながりが強くなり、ひいては「桑折っ子育成」の理念にもつながっていくのではないかと。

長谷委員 教育支援センターができて良かった。町民がこの施設に関心を寄せるための取組みが必要。

柴田委員 守備範囲が広く、かつては見逃されがちだった分野であることから、どこまで手をかけていけるかが課題。普通学級での教育を希望する保護者もいる中で、特別支援への指導・調整が教育委員会の大きな課題。子育てのしやすさについて、より一層の PR が必要。

### ③教育活動を支える条件整備として行うこと

#### 設定趣旨について教育長より説明

柴田委員 10年間という長期的視点であることから、教育委員会としては「小学校統合」まで踏み込んだ表現をしてもいい。また、小規模自治体にとって非常に大きな効果を期待できる小中一貫教育にも踏み込みたい。

鈴木委員 学校の存在が地域のつながり・活性に貢献していると考えられるため、個人的には統合は望ましくない。急がないでほしい。

小野委員 子どもが少なくなる中での財政負担を考えたとき、この議論は避けて通れない。町民、特に統合される地域の住民に納得してもらうためには「少なくなるから統合する」ではなく「少なくなるからこそそのメリット」「学校が一つになることで全く新しいことができるメリット」を打ち出した上で議論を進める必要がある。

長谷委員 統合の議論を開始する目安として、複式学級編制の見通しについて確認したい。

教育長 小学校の統合については、平成 22 年に「複式学級制の学校が出現することにより、教育上の影響が出るようになったら検討を始める」と教育委員会で議決している。本格的な複式学級編制は令和 7 年度からの見通し。

柴田委員 統合について個人的には賛成ではないが、学校が近くにある必要性について保護者の意見は分かれる。一方で集団の必要性を感じている保護者はとても多い。よって、複式学級編制が増えてくると保護者側から統合の要望が必ず出てくる。

教育長 教育委員会は統合の是非を議論する場ではなく、統合につ

いて、町全体が意思を統一していくためにはどうしたらいいかを考えるのが役目。教育・財政・地域づくり・これまでの歴史、それぞれの観点からのメリット・デメリットを整理し「このようなメリットがあるため統合する」という議論を行う必要がある。皆さんの発言から、計画の中に「検討の方向性」を位置づける必要がある、というご意見があると受け止めた。

(2) ポイント3：コロナ後の教育は、どうあればよいか？

設定趣旨について教育長より説明

鈴木委員 ICT教育における電子黒板は、授業に生かし切れているのか否か。有効活用を図るため先生方へのレクチャー等を行う必要がある。子どもや町民対象にICTを活用するため講座、例えば町の情報発信にもつながるSNSの講座など開催を希望する。リモート通信は、その距離感から対面より話しやすい面がある。不登校で支援センター利用も難しい児童生徒に有効なのではないか。

小野委員 ICTの現状、機器は充実しているが、運用が遅れているように思う。先生個々人のスキルに頼ると活用進度に差が出てしまうため、足並みを揃えるためにも専門のアドバイザーが必要。

長谷委員 ICT導入による先生の負担が懸念。先生間で情報共有化を図って進めてほしい。

柴田委員 やむを得ないことだが、通常の授業を行う中では、オンライン授業の教材研究は進まないのではないか。限られた時数の中からICT活用のための授業およびその時数を捻出する必要があることから、児童生徒が参加する行事を精選するなど見直しを図る必要がある。

教育長 「そもそもの部分」での率直な意見をいただくことが出来大変有意義であった。計画に反映していきたい。

11 その他

(1) 次回教育委員会開催について

・9月25日(金) 13:30～ 第1会議室

(2) 今後の日程について

(3) その他

・特になし

12 閉会 午後3時07分